

成果指標				
成果指標	利用者数			
指標設定の考え方	本事業は、対象者への施設利用(環境)の提供であることから利用者数を指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	30000	25000	25000	25000
実績	33644	23202	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用者数が減少しており、今後少子化等もあり利用者数の大幅な増が見込まれない中、プログラムの工夫による施設の魅力向上などにより、利用促進を図っていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用者の減少傾向が見られるため、月計画の見直しを図り、魅力のあるプログラムの提供を目指す。また、児童館の利用について、市民に周知を図るように今後も努める。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題